

鳴潮

1年のうちの何げない一日にすぎないのに、この一日は特別な日である。9・1。1923年の関東大震災から93年となったきのう、震災と東京大空襲の犠牲者を追悼する大法要が都内で営まれた▼思えば、この国にとって特別な日が増えている。1・17、3・11、4・14…と、地震、津波、台風などによる災害で「忘れられない日」が多くなっているからである。こうした日は、記録や記憶を呼び覚まし、災害をわが事に、防災をわが事に考えてと訴える▼特別な日が何を問い、この日から何を学ぶべきか。後の世代に、何を伝えていったらいいのか。作家ら9人による「特別授業3・11 君たちはどう生きるか」（河出書房新社）が参考になる▼「保健」を担当した精神科医の斎藤環さんは、亡くなった人のことを忘れず、遺族を孤立させないためにも「喪の仕事」は意味があり、大切だと書いた▼君たちにできることとして、斎藤さんは自ら「人薬」と呼んでいる薬を紹介。〈信頼できる人間関係ってというのは、時として何よりも効果的な「薬」にもなるんだ〉と記している。「忘れない」こともできるし、「ともにある」と言うこともできるとも▼これまで何げなく通り過ぎてきた日が突然、特別な日になる時代を共に生きている。災害列島、備えや心構えに新たな息を吹き込む時である。

2016・9・2

赤線120文字

▼は段落の始まりの印

100文字要約：地震、津波、台風などによる災害で「忘れられない日」が多くなっている。こうした日は、記録や記憶を呼び覚まし、災害を、防災をわが事に考えてと訴える。災害列島、備えや心構えに新たな息を吹き込む時である。

解説：①「思えば、この国にとって特別な日が増えている」の理由が「1・17、3・11、4・14…と、地震、津波、台風などによる災害で「忘れられない日」が多くなっているからである」です。

②「これまで何げなく通り過ぎてきた日が突然、特別な日になる時代を共に生きている」は「災害列島、備えや心構えに新たな息を吹き込む時である」の理由です。

* 「『保健』を担当した精神科医の斎藤環さんは（中略）自ら「人薬」と呼んでいる薬を紹介。〈信頼できる人間関係ってというのは、時として何よりも効果的な「薬」にもなるんだ〉と記している。『忘れない』こともできるし、『ともにある』と言うこともできるとも」は「備えや心構え」の具体例で、青線を引くこともできます。